

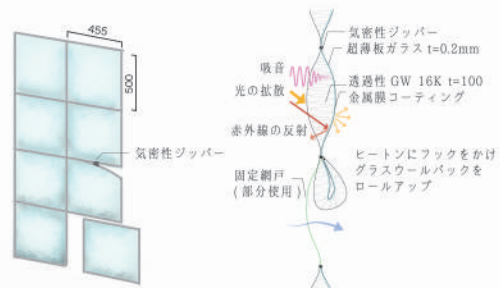
包包 - パオパオ -

ガラスは様々な形で現代建築に使用されている。それはフロートガラスのように建具に利用されるものだけでなく、グラスウールとして断熱材・吸音材に活用されている。
そんなグラスウールそのもので、建築を被覆できないだろうか。
軽やかなグラスウールを断熱や吸音だけでなく、採光を取れるような壁材とできれば
遊牧民の住居「包-パオ」のように自由に建築することができ、あらゆる地域に暖かい空間を生み出すことができないだろうか。



グラスウールを包む

超薄板ガラスによってグラスウールを包み込むことで、光を透過しつつ、耐候性を持たせ、内外装材として使用できるようにする。
超薄板ガラスには金属膜をコーティングし、日射を遮蔽することで、室内への直射日光を和らげる。
グラスウールは 455 × 500 のサイズで包装し、ジッパーで接続していく。ジッパーを開けることでユニットを取り外し、風を取り込むことができる。



空間を包む

グラスウールバックをプレカット材による骨組みに纏わせる。
軽くて、持ち運びしやすいため、運搬の手間が少なく、簡単に組み立てることができる。

どこにでも運べて、過ごしやすい空間を包み込むグラスウールバックが、変わりゆく気候変動の中で人類に居場所をもたらす。



グラスウールバックを繋げるだけで、屋根と壁が出来上がるため、誰でも施工ができる。



グラスウールバックをロールアップすれば、どこでも開口部になり、風を通したり風景を楽しむ。